

通巻第26号

国立大学法人 九州工業大学

産学連携推進センター

2012

annual NEWS

KYUSHU INSTITUTE OF TECHNOLOGY
COLLABORATION CENTER



つなげる力が創る未来

Kyutech
KIT COLLABORATION CENTER



C O N T E N T S



ご挨拶 センター長 小田部 荘司	1
ご挨拶 副センター長 赤星 保浩	1
産学連携の顔	2
生命体工学研究科 教授 白井 義人	
先端機能システム工学部門 教授 趙 孟佑	
産学連携推進センター 若松分室 教授 佐藤 寧	
トピックス	5
「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」事業に採択	
新たに3つのセンターが設置されました	
九工大世界トップ技術Vol.3を発刊しました	
最近の事業化具体例	
① 本学教員が第4回ものづくり日本大賞特別賞を受賞	
② 表面処理装置「細胞アレイヤー」を企業と共同開発	
③ ソフトウェアの技術移転の事例	
事業活動報告	9
① 九州工業大学出前講座キャラバン事業	
② 技術交流会（キューテックコラボ）	
③ 「北九州地域産業人材育成フォーラム」事業	
④ 事業開発ビジネス講座	
⑤ 新技術説明会	
⑥ 地域産学官連携勉強会	
⑦ 九州工業大学ビジネスプランコンテスト	
⑧ e-ZUKA TRYVALLY「起業家応援セミナー」	
⑨ 若手研究者の知財DNA研修	
⑩ 知的財産セミナー	
⑪ ニーズ・シーズ研究会	
⑫ ソフトウェア著作権研究会	
⑬ 第7回環黄海産学官連携大学長フォーラム（韓国大田市）に参加	
⑭ 台湾の国立成功大学と超小型衛星分野で相互交流	
⑮ 飯塚病院等と医工学連携の協力推進に関する協定を締結	
⑯ （独）産業技術総合研究所及び北九州市と連携・協力協定を締結	
⑰ 山口フィナンシャルグループ3銀行と産学連携に関する協定を締結	
⑱ 福岡工業大学と金型製造技術に関する連携協定を締結	
出展、開催事業等一覧表	23
平成23年度共同研究一覧	24
コーディネータ&職員紹介	30
数字でみる九工大の産学連携	33



センター長就任ご挨拶



大学院情報工学研究院 電子情報工学研究系 教授 **小田部 荘司**

このたび、平成24年9月1日付けで鹿毛浩之教授の後任として、産学連携推進センター長を拜命いたしました。九州工業大学には魅力的な教員が何人もおりますが、鹿毛教授は中でも際だっており、私で後任が務まるのかはなはだ心配ではあるのですが、スタッフの方々の力をお借りしてさらに発展させていきたい所存です。

産学連携推進センターは1989年5月に発足した地域共同研究センターを前身として、2006年10月に知的財産本部と統合して発足しています。現在では、知的財産、リエゾン、教育支援、ベンチャー支援、国際の5部門をもち、精力的に活動しています。私自身も知的財産本部が発足したおりに、委員会活動を通じて知財に関して勉強したことを覚えております。昨年度、産学連携推進副センター長としてこの分野に戻ってみると、大変大きな組織であることにまず驚かされました。5部門には部門長がおり、併任ではなくて専任されている部門長が3名おります。また各部門におけるマネージャーや、コーディネーター、さらに飯塚および若松の分室、そしてそれらを支える研究協力課をはじめとする事務職員と数えると30~40名のスタッフが常時関わっている体制となっています。これらのスタッフの力を合せ、地域の皆様、関係各機関のご協力を得て、より一層の産学連携活動の推進に邁進して参ります。

大学の使命に地域貢献が掲げられてかなり経ちました。今後も引き続きご指導ご鞭撻をいただきますよう、どうぞよろしく願いいたします。

副センター長就任ご挨拶



大学院工学研究院 機械知能工学研究系 教授 **赤星 保浩**

戸畑キャンパスで毎月第3木曜日に開催される三木会に何度か参加させて頂きましたが、私の研究分野がかなり特殊な分野（人工衛星と宇宙ごみとの超高速（秒速1km以上）衝突現象）ということもあり、これまで特定の企業との連携に留まっていました。副センター長就任後はできるだけ多くの企業との交流を通して、自らの視野を広げていきたいと考えております。昨年度、副工学研究院長と

して地元企業を訪問し、各社の人事担当者にご挨拶させて頂きましたが、本学卒業生が地元企業に多数就職し、各社の中核的な人材として活躍していると伺い、深く感銘を受けているところです。今後はイノベーション推進機構の下、リサーチ・アドミニストレーション・センターと緊密に連携し本学の産学連携を活性化していきたいと考えております。さらには、公益財団法人北九州活性化協議会ならびに北九州地域産業人材育成フォーラムなどを通じて、本学卒業生の活躍の場を広げ、ひいては本学と地元企業との産学連携の更なる発展に寄与できればと思っています。

皆様方からの貴重なご意見等を踏まえながら、本学の産学連携に微力ながら貢献できればと思っています。何卒よろしく願い致します。

マレーシア・スーパー・サテライト・キャンパス構想と九州工業大学のグローバルカ

生命体工学研究科 教授 白井 義人



2012年3月30日、九州工業大学とマレーシア・プトラ大学（UPM）とは、九州工大の現地キャンパスの設置準備として、マレーシア・スーパー・サテライト・キャンパス（MSSC）設置に関するLOI（Letter of Intent）に調印した。これまでに、UPMにおいて、カウンターパートのモハメッド・アリ・ハッサン教授と筆者は、バイオマスに関する研究を中心に、14人の博士を輩出し、現在も16人の博士後期課程の学生を指導している。それで、MSSCではまず博士後期課程の学生に焦点をあて、現地に我が国の若者を送り込んで、現地で教育することを主眼に、本格的な海外キャンパスの準備として設置が決まった。

この取組は直ちに現地で報道されたが、我が国には少し遅れ、5月に入って西日本新聞のスクープの形で朝刊1面に報道された。その日、朝から国際課の電話は取材と取材申し込みの電話が鳴りやまない状態になった。結局、主要各紙、webニュースでその翌日までは、大きく報道された。このことは、海外での日本基準の教育に大きな需要があることを示している。実際、現地人（邦人も含む）を採用するだけで設置できる海外事務所は全国の大学で356箇所（文部科学省「大学における教育内容等の改革状況調査（平成21年度実績）」より）あるが、日本基準の教育研究を保障せねばならない海外キャンパスは、少なくとも国立大学では皆無である。つまり、海外で日本基準の教育研究を求める社会の要請に答えられる大学の出現が望まれているのである。考えてみれば、我が国では、デフレから脱却できず、金利はほぼゼロ、借金ばかり増えて、給料は下がる一方、おまけに、円高で石油は割安のはずなのに、3.11以降、原発が止まり、電気代は上がりこそすれ、下がらない。誰もがうすうす、海外に活路を見出す以外に自分の子供の明るい将来はないのでは、と気づきだしているように思う。

一方、筆者はこの6月はじめにJSTとJICAが共同で募集した地球規模課題対応国際科学技術協力事業という大型競争的資金の獲得に成功し、マレーシアサバ州の大河、キナバタンガン川周辺の生物多様性の保全とそのための周辺パームオイル工場のエネルギー、環境対策を充実させ、その中で余剰になるバイオマス、エネルギーから、高付加価値なバイオマスプラスチックを生産することになった。つまり、ここは国際産学連携の場として邦人企業にも広く参加をよびかけ、また、グローバルセンスを鍛えるだけでなく、地球規模の環境修復と新しい持続可能なグリーン産業の熟成の場として、我が国の若い人たちが、国際的な現場力を身に着け、自らを鍛錬する場になることを望んでいる。



調印式の両学長（中央）、
アリ教授（左端）と筆者（右端）



UPM内のMSSC候補地にある
両大学のパイロットプラント施設

宇宙環境技術ラボトリーの産学連携研究と宇宙実証

先端機能システム工学部門 教授 趙 孟佑



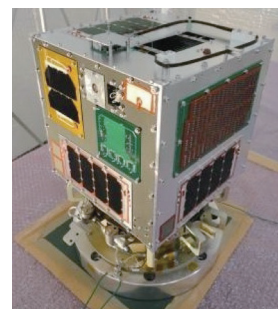
宇宙環境技術ラボトリーは前身の宇宙環境技術研究センター(2004年12月設置)以来、「宇宙に耐えるモノ作り」をキーワードに、衛星帯電・材料劣化・超高速衝突・超小型衛星試験に関する研究活動を行ってきた。これらは、国内外の宇宙機関や衛星メーカー・地域企業との幅広い産学連携研究をベースとしている。宇宙技術の研究開発の成果を実用化するためには、地上での研究結果を宇宙空間で実証することが必須である。本ラボトリーは産学連携研究を通じて耐宇宙環境技術を培ってきたが、それらの内のいくつかが実験室での基礎実験段階を離れ、宇宙実証段階に移行してきた。

2011年5月16日、本ラボトリーがJAXA・ロッキードマーチン社(米)と共同開発したPrimary Arcing of Solar Cells At Low earth orbit experiment (PASCAL) という実験機器が国際宇宙ステーションに打ち上げられた。PASCAL実験は、直流電源を用いて太陽電池を周辺プラズマに対して最大で-300Vにバイアスし、放電発生による太陽電池の劣化を調べることを目的としている。本ラボトリーは日本側のとりまとめとして実験制御・測定機器の開発・環境試験を行った。同機器は全ての部品が地上民生品で構成されており、福岡県内の(株)昭和電気研究所が製作した。PASCALは既に1年間に亘って実験が行なわれており、本ラボトリーでデータの解析が続けられている。

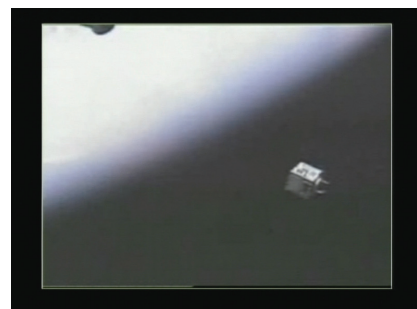


国際宇宙ステーションに据え付け作業中のPASCAL (©NASA)

ほぼ一年後の2012年5月18日には、H2Aロケットにて高度680kmの太陽同期軌道に九州工業大学初の人工衛星、高電圧技術実証衛星「鳳龍弐号」が打ち上げられた。鳳龍弐号は、学生のシステム工学教育という側面以外にも、これまでにラボトリーが開発してきた耐宇宙環境技術の軌道上実証という側面ももっている。鳳龍弐号のメインミッションは、「宇宙空間において300Vで安定して発電できる技術」の実証であるが、そのために世界で初めて太陽電池アレイによる宇宙空間での300V発電実験を行い、7月8日に成功した。現在、この発電電圧を使って、ラボトリーと三菱電機(株)で共同出願した放電抑制型太陽電池アレイが実際に放電を抑制できるかどうかの実証実験を行なっている。これ以外にも鳳龍弐号では、衛星帯電計測器、衛星帯電防止電子エミッター、微小粒子衝突検出器等の産学連携研究で培ってきた技術の実証実験が計画されている。これらの技術について鳳龍弐号での実証実験で効果が認められれば、より大規模な衛星での実証実験を経て実用化(ビジネス化)に至ることとなる。



鳳龍弐号のフライトモデル



分離直後の鳳龍弐号 (©JAXA)

特徴ある産学連携の取り組み

産学連携推進センター若松分室 教授 佐藤 寧



私は、アメリカ企業やソニー、ケンウッドといったAV・音響機器メーカーで基礎研究、事業化を主に経験して来ました。そんな経験を活かして若松分室では旧HITセンターの流れもあり、若松分室なりの特徴ある産学連携の活動を行ってゆく理念で、多くの大手企業と共同開発や製品化、助成事業の獲得、生命体工学研究科の先生方へ企業連携の推進、講座では学生さんに企業での製品開発を踏まえた基礎理論を紹介させて頂いています。そして、共同開発企業に学生さんが就職希望すれば紹介も行っています。今回は、その特徴ある活動の紹介を致します。

【特徴1：大学の宣伝活動】

共同開発の成果である、携帯電話、音楽プレーヤ、LSIなどの製品パンフレットに大学名を入れてもらい、多くの学生や社会人の方々へ大学を認知して貰っています。特にパンフレットは国内は当然、世界中の販売店にも配布され膨大な宣伝費をかけずに大学宣伝を可能としました。

【特徴2：特許と研究の方向性】

大手企業は数百人～数千人規模の体制で研究開発を進めています。もちろん予算も膨大でトヨタ自動車では1兆円規模の様です。よって、このような企業に特許をライセンスすることは容易ではありません。もし、企業と同じ研究を行えば、人材、研究費や設備のある企業へのライセンスは困難です。よって、その企業が未開発な技術で、しかも商品価値（差別化）を高くするものである必要があります。しかし、どの研究をすればよいかを知ることは困難です。そこで、若松分室では、これまでの大手企業との共同開発経験の中から、どの様な技術が必要になってくるのかを、多くの企業連携の中で見つけ、その様な技術を生命体の先生方に紹介し、今後の研究の方向性や研究テーマの選定に関して参考にして頂いています。

【特徴3：技術の信頼】

大学の技術（特許）を入れた製品を発売する場合、大手企業では特許侵害のリスクが大きな問題になります。これは製品発売後、特許侵害で訴訟になったり発売の停止要請などに繋がります。よって、相手企業の研究者へ詳細な技術説明とディスカッション、そして技術リサーチ会社からの対応を何回も行い、研究者全員と知財部門の方達に認められ、特許侵害の課題をクリアします。思いつきの技術やアイデア、誰もが知っている技術は全て排除されますが、認めらる事で本当の意味で「世界で一つ」の技術になります。この経験も先生方へ説明させて頂いています。

【特徴4：地域企業への貢献】

1つの企業へ新技術を移転する他、研究成果を中心に大手企業と地域企業を結び付ける接着剤の様な産学連携を推進しています。特に中小企業では大手企業との連携が困難な場合が多く、このような課題を大手企業と共同開発中に中小企業の紹介を行うことで可能としました。

トピックス

1 「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」事業に採択

平成23年度から文部科学省の「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」事業が開始し、初年度は実施校として5校が採択されました。平成24年度は、世界的研究拠点整備、専門分野強化、地域貢献・産学官連携強化の3タイプに分けて10校の公募があり、本学は地域貢献・産学官連携強化のタイプで採択されました。

本事業は、大学等が、研究開発に知見のある人材等をリサーチ・アドミニストレーターとして活用・育成するとともに、専門性の高い職種として定着を図ることをもって、大学等における研究推進体制・機能の充実強化に資することを目的としています。

本学は今後、「リサーチ・アドミニストレーション・センター（略称URAセンター）」（下図参照）を新設し、研究開発に知見のある人材等、既に地域貢献・産学官連携において活躍している研究者を対象として、一層の研究の質的向上と研究進展の加速を促すトップアップの支援を行います。また、未だ地域貢献・産学官連携に参加していない研究者をプレーヤーに引き込み、研究プロジェクトを開拓して地域貢献・産学官連携の裾野を広げるプロジェクト開拓支援等を実施し、地域経済の発展に繋げることを推進していきます。

<平成23年度採択5拠点>

東京大学、東京農工大学、名古屋大学、金沢大学、京都大学

<平成24年度採択10拠点>

世界的研究拠点整備

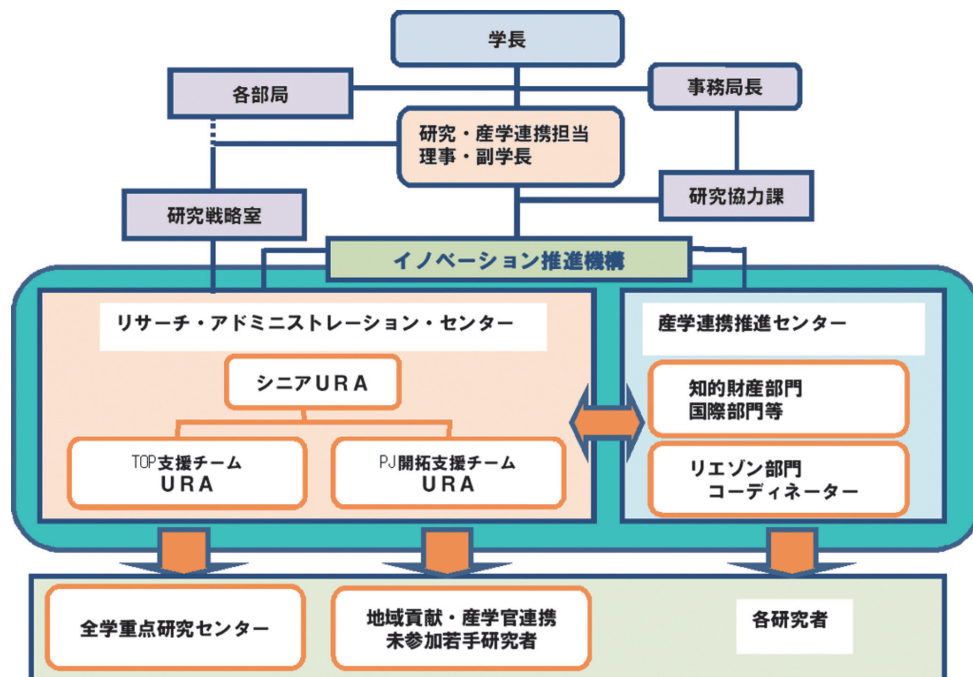
北海道大学、筑波大学、大阪大学、九州大学

専門分野強化

新潟大学、山口大学、東京女子医科大学

地域貢献・産学官連携強化

福井大学、信州大学、九州工業大学



新設されるURAセンターと関連部署を含む組織図

2 新たに3つのセンターが設置されました

平成24年度に入り、新たに以下の3つのセンターが設置されました。

3つのセンターを加え本学の特色ある教育研究支援施設は12センターになりました。

九州工業大学グリーンイノベーション実践教育研究センター

センター長 三谷康範（大学院工学研究院 電気電子工学研究系 教授）

グリーンイノベーション（持続可能なエネルギー・資源の利用、開発、制御及び管理並びにそれらを扱う基礎と応用に関する科学技術及びエンジニアリング）教育研究の推進並びに環境施策に関する企画立案及び指導・助言を行うとともに、学外関係機関との連携を図り、グリーンイノベーションに貢献することを目的として設置。〔平成24年4月1日設置〕

九州工業大学バイオメディカルインフォマティクス研究開発センター

センター長 倉田博之（大学院情報工学研究院 生命情報工学研究系 教授）

生命科学や医学は、コンピュータシミュレーション技術を駆使する時代を迎えている。このような世界的潮流の中で、情報工学研究院が培ってきた情報技術を用いて、医療情報工学を創成するための基礎技術とその応用技術の研究を行い、21世紀における医療を効率化する革新的情報技術を開発し、その技術の事業化を進めるとともに、本学における教育研究活動の推進に資することを目的として設置。〔平成24年4月1日設置〕

九州工業大学次世代パワーエレクトロニクス研究センター

センター長 大村一郎（大学院工学研究院 電気電子工学研究系 教授）

環境エレクトロニクス（省エネルギーの推進、自然エネルギーの活用等の観点から低炭素社会の実現に貢献するエレクトロニクス）に関する研究を次世代のパワーエレクトロニクス技術の観点から効果的に推進することにより、わが国の学術・教育及び産業技術の振興に寄与することを目的として設置。〔平成24年5月2日設置〕

3 九工大世界トップ技術Vol.3を発刊しました

本学における研究成果を分かりやすく紹介する本として、平成18年6月に「九工大世界トップ技術Vol.1」、平成20年4月に「九工大世界トップ技術Vol.2」を発刊し、このたび、第3弾となる「九工大世界トップ技術Vol.3」を発刊しました。

今回は、「エコフィッティング」という本学発の技術コンセプトに立った研究成果を紹介する内容となっています。



4 最近の事業化具体例

① 本学教員が第4回ものづくり日本大賞特別賞を受賞

平成24年本学の教員2名が、第4回ものづくり日本大賞特別賞を受賞しました。

(1) 大学院工学研究院 物質工学研究系 横野 照尚 教授

平成20年度地域資源活用型研究開発事業、平成21年度地域イノベーション創出研究開発事業で、株式会社フジコーと本学が共同開発、製品化した室内光応答型抗菌タイル並びに光触媒空気清浄機が、第4回ものづくり日本大賞特別賞*を受賞しました。

本装置は、室内光やブラックライトにより従来の1000倍以上の殺菌性能を発揮し、小倉駅や平和通り駅、公共機関のトイレや等に施工され高い効果を発揮しています。



(2) 大学院工学研究院 先端機能システム工学研究系 脇迫 仁 准教授

平成19年度地域新生コンソーシアム研究開発事業、平成20年度地域イノベーション創出研究開発事業で、C&Gシステムズ、三井ハイテック、昭和電気研究所、福岡県工業技術センター機械電子研究所と本学が共同開発・製品化した金型用の研削盤が、第4回ものづくり日本大賞特別賞*を受賞しました。

本装置は、研削装置に画像計測技術を組み込み研削加工作業の自動化を実現しました。

このシステムは、第22回型技術協会「技術賞」も受賞しました。



開発した自動循環型研削システム

*ものづくり日本大賞とは

「ものづくり日本大賞」は、日本の産業・文化の発展を支え、豊かな国民生活の形成に大きく貢献してきた「ものづくり」を着実に継承し、さらに発展させていくために経済産業省、文部科学省、厚生労働省および国土交通省の4省連携により、2005年8月に創設され、2年に一度開催している表彰制度です。

② 表面処理装置「細胞アレイヤー」を企業と共同開発

生命体工学研究科 生体機能専攻 春山哲也教授と荏原実業株式会社は、細胞アレイを簡易的に製作できる表面処理装置「細胞アレイヤー」を共同開発しました。

この装置は、春山教授らが見出した材料表面処理技術を基に開発されたもので、従来高価な設備が必要とされる細胞アレイの製作を、紫外線とオゾンを利用することで、大学など研究室単位で簡易的に製作することができるようになります。

平成23年9月7日～9日に幕張メッセ国際展示場（千葉県）で開催された「分析展・科学機器展2011」にその実機が展示されました。



細胞アレイヤー（外形）



細胞アレイヤー（内部）

③ ソフトウェアの技術移転の事例

九州工業大学では、平成19年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」の採択をうけ、本学情報工学部の教員9名で構成された特色GPワーキンググループにより、学修自己評価システムを開発しました。本システムは、九州工業大学発のベンチャーである株式会社ハウインターナショナル（ハウ社）により実装されました。学修自己評価システムは、学修に対する学生の自己管理能力と学修意識を高めることを目的として、学生自身による学習・教育目標の達成度評価を行うものです。本システムは、学生自身により学修目的と動機を明確化し、自己管理能力の向上を図ることができるようになっています。

学修自己評価システムを広く普及させることを目的として、本システムの著作権をハウ社に、独占的に使用許諾しました。ハウ社は、学修自己評価システムとハウ社独自のノウハウを活かし、電子ポートフォリオ「エディア」を開発しました。「エディア」は、数値化することができない学生の成長やキャリア形成の過程を見える形で蓄積し、学修の振り返りに役立てることができるシステムです。「エディア」は、既にいくつかの大学に導入されています。近年、学生のキャリア教育に力を入れる大学が増加しており、今後、さらに多くの大学で導入されることが期待されています。

電子ポートフォリオ「ediea」のパーソナルポートフォリオの画面

事業活動報告

1 九州工業大学出前講座キャラバン事業を実施しました

九州工業大学産学連携推進センターは、文部科学省大学等産学官連携自立化促進プログラムの採択を受け、昨年度に続き、大学等の研究成果を効果的・自律的に社会につなぐための産学連携活動の一環として「出前講座キャラバン」実施しました。

第1回は古賀市、第2回は大牟田市、第3回は下関市において、何れも地元自治体や商工会議所等との協力の下に実施しました。当日は、学長の講演、本学の保有するシーズ紹介等を行い、参加者の高い関心を集めることができました。



松永学長講演（大牟田会場にて）



下関会場の様子

【開催の概要】

開催日	開催場所	講師	演題
平成23年10月28日	古賀市	①本学学長 松永守央 ②本学客員教授 田中洋征 ③本学知的財産部門長 中村邦彦	・産学官連携による地場産業の世界展開 ・失敗しないための実践的産学連携 ・九工大の特許技術シーズの紹介
平成23年11月30日	大牟田市	①本学学長 松永守央 ②福岡県工業技術センター機械電子研究所 専門研究員 林伊久氏 (株)ワコー 専務取締役 相浦正文氏 ③本学知的財産部門長 中村邦彦	・産学官連携は地方活性化の起爆剤となりうるのか？ ・マイクロ波で常温乾燥（新しい食品加工技術）の事業化 ・九工大の特許技術シーズの紹介／すごいぞニッポン！
平成24年 2月 7日	下関市	①本学学長 松永守央 ②本学知的財産部門長 中村邦彦 ③山口大学産学公連携・イノベーション推進機構 副機構長 山本節夫氏	・産学官連携は地方活性化の起爆剤となりうるのか？ ・九工大の特許技術シーズの紹介／すごいぞニッポン！ ・山口大学のユニークな地域産学連携活動の事例紹介

2 技術交流会(キューテックコラボ)

産業界とのより一層の連携強化を図るため、平成19年3月に「九州工業大学技術交流会(キューテックコラボ)」が発足して5年、会員数は法人会員、個人会員合わせて500人を超えました。

平成23年度も、月例の無料セミナー「三木会(さんもくかい)」の開催や会員向けメールマガジン配信等の情報提供事業などを継続的に実施しました。

また、キューテックコラボのホームページをリニューアルし、会員登録や三木会申込の際の利便性が向上しました。

この他、本学の松永学長、鹿毛副学長が企業を訪問して、キューテックコラボ会員企業へのヒアリングや非会員企業への入会案内などを行っており、24年度も継続的に実施しています。

大学の研究室等が主催する各種「研究会」活動の支援も引き続き行っており、平成23年度も「粉体工学研究会」「ものづくり研究会」が定期会合を開きました。

●「三木会(さんもくかい)」の開催

地域の皆様との連携をさらに深めるため、産学官の関係者の交流の場として、平成17年度から毎月第三木曜日に実施している「三木会」を引き続き開催しました。平成23年度は12回開催で延べ693名にご参加いただきました。

「三木会(さんもくかい)」の開催状況

日時	テーマ	講師	
		所属・役職(講演当時)	氏名
平成23年 4月21日	地域経済の活性化に向けた施策展開と東日本大震災関連の対応	経済産業省 地域経済産業グループ 地域技術課長補佐	神宮 勉 氏
平成23年 5月19日	西日本シティ銀行の地場産業の支援について	(株)西日本シティ銀行 常務取締役 北九州総本部長	川本 惣一 氏
平成23年 6月16日	役割分担するアウトプット型産学官連携	福岡県工業技術センター 機械電子研究所 所長	神谷 昌秀 氏
平成23年 7月21日	人に役立つロボット作りを目指して	(株)テムザック 代表取締役	高本 陽一 氏
平成23年 8月18日	これからの街と住まい/とっておきの街と住まい	(株)白川直行アトリエ 代表取締役	白川 直行 氏
平成23年 9月15日	スマートシティへの挑戦 「北九州スマートコミュニティ創造事業」	北九州市環境局統括専門官 (北九州スマートコミュニティ創造事業プロジェクトエグゼクティブ)	荒牧 敬次 氏
平成23年10月20日	感動する、ものづくり人づくり	松本工業(株) 常務取締役	松本 伸介 氏
平成23年11月17日	産学連携チームワークとディーラー発想による高抗菌性可視光型光触媒塗料の開発	(株)西井塗料産業 営業本部 新機能コーティング材担当部長	齊藤 暢生 氏
平成23年12月15日	スマートな生活、地域、都市	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) スマートコミュニティ部長	高倉 秀和 氏
平成24年 1月19日	環境問題の多様性と産学連携の可能性	(財)国際東アジア研究センター理事長	末吉 興一 氏
平成24年 2月16日	エコデザイン・東日本大震災後の戦略の視点	(独)製品評価技術基盤機構理事	獅山 有邦 氏
平成24年 2月16日	九州工業大学ものづくり研究会成果報告会	九州工業大学	小森望充教授 他
平成24年 3月15日	新たな挑戦 ～技術商社からメーカーへ B to B からB to C へ～	(株)シンテック CEO	新川 忍 氏



キューテックコラボのホームページ



三木会（講演会）の様子



交流会の様子

●研究会活動

九州工業大学技術交流会（キューテックコラボ）では、会員企業、研究室等が主催する研究会を支援しています。今年度は、分野、テーマ別に次の研究会が活動しました。

研究会の活動状況

日時	名称	活動内容	場所	担当教授
平成23年8月2日	粉体工学研究会	2011年度第1回 西日本談話会開催	九州工業大学 図書館AVホール	鹿毛 浩之 教授、 梅景 俊彦 教授
平成23年12月14日	粉体工学研究会	2011年度第2回 西日本談話会開催	九州工業大学 図書館AVホール	鹿毛 浩之 教授、 梅景 俊彦 教授
平成24年2月16日	ものづくり研究会	2011年度成果報告会開催 (三木会として)	九州工業大学 産学連携推進センター セミナー室	小森 望充 教授 他

3 「北九州地域産業人材育成フォーラム」事業が想定外の進展！

昨年5月に発足した産学官連携による「北九州地域産業人材育成フォーラム」は、産業人材育成の地域クラスターの形成に向けた基盤整備と事業開発を実施しました。

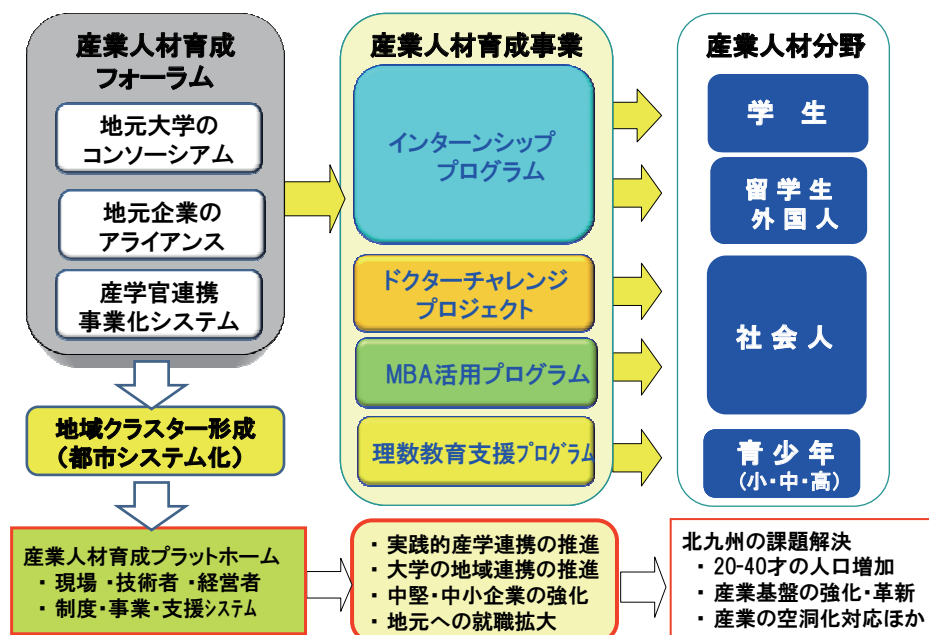
フォーラム事業は、学生、社会人、経営者そして青少年を対象分野として、地域企業ニーズを踏まえた事業の開発と実施をするため、対象分野ごとに研究プロジェクトを運営し、人材育成プログラムの開発と実施システム創りを行っています。

地域連携型インターンシッププログラムは、本学と北九州市立大学（国際環境工学部）を対象に実施し、33社（H24年度は64社に倍増）に59名（H24年度は100名予定）の学生が参加。インターンシップ事業の普及、開発のためにオリジナルの「インターンシップガイド・CD」の作成をし、地域の企業等に配布しました。

社会人プログラムは、本学の「北九州ドクターチャレンジプログラム」と北九州市立大学の「MBA活用プログラム」が始動。北九州地域企業への就職機会の創出を目的に、地域の中堅中小企業を対象にした本学の学内企業説明会(2回、延べ57社、学生約500人が参加)も実施しました。

その他、本学、北九州私立大学、西日本工業大学及び国立高等専門学校トップが一堂に会する産業人材育成セミナーの開催や大学の教員と企業経営者の産学交流会など多彩な事業を展開し、多様な産業集積とグローバルニッチトップの中堅・中小企業の集積する北九州市ならではの大学と産業界が一体となったCO-OP教育の新しいシステムの構築が期待されています。

産業人材育成事業の事業体系



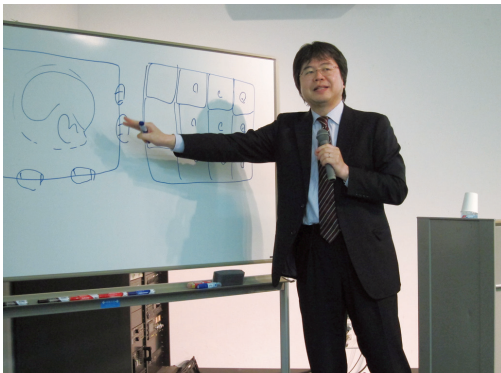
4 事業開発ビジネス講座を開催しました

西日本シティ銀行の共催、九州経済産業局・北九州市・北九州商工会議所・（公財）北九州活性化協議会・（公財）北九州産業学術推進機構の後援で、公開講座（全4回コース）を平成24年1月から3月にかけてAIMビル会議室において開催しました。

本講座は、広く社会人を対象とした公開講座で、平成17年度から実施しています。平成23年度は4回開催で延べ198名にご参加いただきました。

平成23年度は、リーマンショック、震災後の日本の活路はどこにあるのか、また、企業としてどのような戦略を持ち新たなイノベーション、市場に対峙していくのかをテーマに、産学官の有識者を招聘して開催しました。

開催日	テーマ	講師	
		所属・役職（講演当時）	氏名
平成24年1月11日	『ゲームが変わった』日本の再生戦略とは	経済産業省 地域経済産業グループ 立地環境整備課長	中村 吉明 氏
平成24年1月25日	高温超電導線と応用製品の実用化と将来への展望	住友電気工業(株)フェロー 材料技術研究開発本部・超電導担当 技師長	佐藤 謙一 氏
平成24年 2月 8日	“想定外”の環境変化に対応する戦略経営	広島大学大学院社会科学研究科教授・博士（商学）	井上 善海 氏
平成24年 3月 6日	「これからのビジネスモデルと強いものづくり」 ～開発の鉄人が語る開発におけるガバナンスの重要性～	システム・インテグレーション(株) 代表取締役社長	多喜 義彦 氏



第1回 講演をする中村 吉明 氏



第2回 講演をする佐藤 謙一 氏



第3回 講演をする井上 善海 氏



第4回 講演をする多喜 義彦 氏

5 新技術説明会を実施しました

平成23年12月、科学技術振興機構JSTホール（東京 市ヶ谷）において、九州工業大学新技術説明会を開催しました。新技術説明会は、発明者自身が企業関係者を対象に実用化を展望した技術説明を行うもので、今回は「医療・健康・福祉とエネルギーの技術」と題して、6回目の開催となりました。企業関係者から、のべ400名を超える申し込みがあり、多数の企業関係者の出席をいただき、各教員からも熱のこもった説明が行われ、参加者も熱心に聴講していました。発表後には技術相談も行われ、今後、共同研究、技術移転等、産学連携活動への展開が期待されます。

東京地区での本学の技術内容を一括して紹介するこのような機会は大変貴重であり、関係機関の支援を受け、来年度以降も引き続き実施していく予定です。



学長挨拶



鹿毛副学長の大学事例紹介



宮本先生の講演



佐藤先生の講演



金元先生の講演



会場の様子

6 地域産学官連携勉強会を開催しました

文部科学省産学官連携自立化促進プログラムの一環として、平成22年度に引き続き、北九州市内の大学・高専等による地域産学官連携勉強会を開催しました。本勉強会の参加校は、福岡市内の2大学を含めた11大学・高専等です。平成23年度は産学連携の成功事例研究等を中心に計4回開催しました。



【勉強会の風景】

【勉強会の活動状況】

回	内 容
1	(1) 企業プレゼン(産学連携成功事例) 株式会社フジコー 取締役 技術開発センター長 永吉英昭氏 (2) 知財関係 (3) 各大学のトピックス等紹介
2	(1) 企業プレゼン(産学連携成功事例) ㈱K2R研究開発担当 医学博士 田中健一郎氏 (2) 技術相談から共同研究へ 福岡県工業技術センター 機械電子研究所総合支援室長 松野教司氏 (3) トピックス等紹介
3	(1) 企業プレゼン(産学連携成功事例) STEQ代表取締役社長 石原政道氏 (2) ベンチャー企業の現状及び取り組み 北九州市産業経済局新産業振興部 ベンチャー・サービス産業担当課長 水口正克氏 (3) トピックス等紹介
4	(1) 企業プレゼン(産学連携成功事例) 株式会社ハウインターナショナル 代表取締役社長 正田英樹氏 (2) 技術移転を円滑にするソフトウェア著作権の運用 について(九工大の取り組み) (3) トピックス等紹介

7 九州工業大学ビジネスプランコンテストを開催しました

九州工業大学では、新たなベンチャービジネスの芽を発掘し、大学発ベンチャーの活動を一層促進するとともに、大学内外の研究成果を活用できるベンチャースピリットを持った人材育成を図ることを目的にビジネスプランコンテストを実施しています。

外部審査委員を含む審査委員会による審査の結果、以下のグランプリが選出されました。

○グランプリ：

『人の輪が生み出す、高齢者と地域のための「シニアラウンジ」事業』

早稲田大学大学院 情報生産システム研究科 松下浩太 氏



記念撮影



プレゼンの様子

8 e-ZUKA TRYVALLY「起業家応援セミナー」を開催しました

起業家精神の醸成と学生のこれからのキャリアを考える機会の提供を目的とし、飯塚市と共同で平成23年10月、情報工学部500人講義室にて、e-ZUKA TRYVALLY「起業家応援セミナー」を開催しました。

本セミナーでは、ベンチャー企業の育成に力を注がれているジェイエムテクノロジー株式会社 代表取締役会長兼社長の植木一夫氏と、本学の卒業生で株式会社コロプラを起業された代表取締役の馬場功淳氏をお招きしご講演いただきました。

植木氏には、「起業家精神が未来を拓く」という演題にて、起業家の心構えから新しい価値を創造する仕組みなどについて、馬場氏には「起業はするな」という演題にて、大学院在籍中に携帯ソフトウェア開発に従事し個人サイトとしてサービスを始め、その後起業された経緯をもとに、起業前後行うべきノウハウや取り組みなどについて紹介いただきました。最後には日本政策金融公庫 国民生活事業 こくきん創業支援センター福岡所長の田中英治氏より「地域企業と役割と企業のいろは」と題して、学生向けに企業の役割からビジネスが存続できる秘訣（イノベーション）などご講演いただきました。

セミナー終了後の懇談会では、多くの学生が参加し講演者を囲んで活発な意見が交わされました。



9 若手研究者の知財DNA研修を実施

平成23年8月8日（月）、9日（火）、30日（火）、31日（水）の4日間、戸畑キャンパス 総合研究棟 EL演習室 において、知財DNA研修を実施しました。

知財DNA研修は、これから多くの発明の創出が期待される若手研究者の知的財産能力を明細書が書けるレベルに向上を図り、そのDNAを研究室に定着させ、知的財産に強い研究室を育成することを目的として、平成20年から継続して実施しており、今年度で4度目となるものです。

本学で得られた手法を他大学へ普及させる取組みとして、一昨年度から北九州市内の機関へ参加を呼びかけてきましたが、今年度は学内から7名のほか、北九州高等専門学校から1名、北九州市立大学から2名、産業医大1名の合計11名の参加がありました。

継続して行って来たDNA研修の効果もあり、平成23年度は発明者自身が出願明細書を完成させ、代理人を使わずに本学の知的財産部門のパソコンから特許庁に直接インターネット出願した案件が3件ありました。

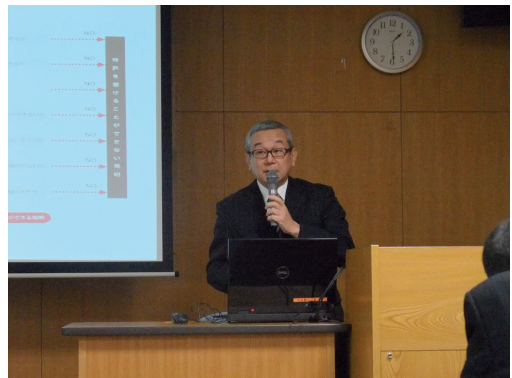
また、外部支援機関と本学のコーディネータが協力して、研究者の競争的資金獲得を支援するという研究テーマ探索支援についても、学内の5名を対象として引き続き実施し、公募事業への申請に向けた準備を整えました。



10 知的財産セミナーを実施しました

本学産学連携推進センターでは、学内における知的財産の創出、保護、活用に対するマインドを高めることを目的として、毎年知的財産セミナーを実施していますが、今年度は、1月13日に、本学産学連携推進センター知的財産部門長の中村邦彦教授が、「日本と米国における学会発表と特許出願の関係における法改正について」という演題で講演を行いました。

米国において伝統的に続いてきた先発明主義が改正されるといいうホットな話題と学会発表と特許出願の関係という大学教職員にとって重要なテーマで、この講演は、戸畑キャンパス、若松キャンパスにも同時中継され、当日は3キャンパス併せて学内外併せて60名以上の教職員、学生が熱心に聴講し、活発な質疑応答がありました。



11 ニーズ・シーズ研究会を10回開催しました

H23年度も、引き続き産学連携のマッチングを推進するために企業のニーズと大学のシーズを研究する「ニーズ・シーズ研究会」を年間で合計10回開催しました。

主な活動内容としては、本学研究者によるシーズ紹介、東京で開催された「JSTの産から学へのニーズ紹介」の共有化、企業のニーズ紹介、本学と医工連携している総合病院とのニーズ・シーズのマッチング、他大学における医工連携の紹介、脱原発と電力問題に関する討議、国際競争においてテレビ等で劣勢にある日本の電子産業の問題に関する討議、(独)製品評価技術基盤機構(NITE)から講師を招いての講演会、競争的資金獲得についての情報提供等でした。

技術ニーズを大学に開示しても良いという企業様には、ニーズ・シーズ研究会にお越しいただき、技術ニーズを紹介して頂ければ、専門分野の技術と九工大の技術シーズに精通したコーディネータが企業様の技術ニーズと大学の技術シーズとのマッチングをはかり、競争的資金の獲得や産学の共同研究に繋げる支援を致します。

12 ソフトウェア著作権研究会

ソフトウェア著作権研究会（委員長・吉田隆一 情報工学研究院 教授）は、文部科学省の「戦略展開プログラム（特色ある優れた産学官連携活動の推進）」プログラムの一環として平成20年10月に発足しました。

研究会の活動の成果として、平成23年6月に、九州工業大学プログラム等取扱細則及び、それに関するガイドラインを制定し、施行しました。本細則の施行後、既に12件のソフトウェアの届け出があり、そのうち6件がライセンスに成功し、2件のソフトウェアは共同研究のシーズとして活用されています。

平成23年度の活動

・研究会を3回行いました。

・学内周知活動

本研究会の取り組みと本細則とガイドラインの説明会を3キャンパス（戸畑キャンパス、飯塚キャンパス、若松キャンパス）それぞれで行いました。

本細則及びガイドラインをわかりやすく説明する教職員向けの「プログラム等著作物の権利活用マニュアル」の作成及び、学生向けにプログラムの開発を伴う研究とその研究において生産される知的財産について説明するパンフレットの作成に取り組んでいます。

・学外周知活動

平成23年12月に開催された大学ICT推進協議会2011年度年次大会において、本研究会の取り組みと本細則とガイドラインの報告を行いました。

平成24年度は、現在作成中の教職員向け、学生向けそれぞれのパンフレットを作成し、配布する予定です。今後も本細則により、有効にソフトウェアの著作権を管理するとともに、その活用を図って行く予定です。



教職員に対する説明会の風景

13 第7回環黄海産学官連携大学長フォーラム(韓国大田市)に参加

平成23年11月16日(水)から17日(木)にかけて、韓国大田広域市にある大田コンベンションセンターにおいて、日本(九州)12、韓国11、中国5の計28大学の学長或いは副学長級の先生方が一堂に会して第7回環黄海産学官連携大学長フォーラム(以下学長フォーラム)が開催されました。本学長フォーラムは九州経済産業局、韓国知識経済部、中国商務部及び科学技術部が主催し2001年から毎年開催している「環黄海経済・技術交流会議」の併設プログラムとして2005年から開催されているもので、大田広域市での開催は2005年以来2回目になります。

第7回学長フォーラムでは、「環黄海地域の産学協力と人材共同育成」をメインテーマとし、環黄海地域にある関係大学の総長・学長が一堂に集まり、テーマ別に発表・意見を交わすことで、相互認識の深化、環黄海地域における大学間の人材交流と育成を推進することを目標に掲げ、2日間活発な意見交換や情報交換を行いました。今回の大田会合では、大学同士の交流の時間を設け、個々の大学レベルでの具体的な交流促進を図ろうという試みも取り入れられました。

本学は日本側大学の代表校を務めており、今回の韓国大田会合でも、日本側参加大学のとりまとめや日中韓三国間での調整作業等を行うとともに、当日は、セッション1「環黄海地域での産学協力」において、本学が現在取り組んでいる韓国に行ける産学官連携事業について松永学長から報告発表を行いました。

平成24年の環黄海経済・技術交流会議は、次の当番国、中国の江蘇省連雲港市にて9月19～20日にかけて開催されます。



日中韓から28大学が集まって行われた
第7回環黄海産学官連携大学長フォーラム



「環黄海地域の産学協力」
のセッションにおいて、韓国との
産学官連携事業について報告する松永学長

14 台湾の国立成功大学と超小型衛星分野で相互交流

東アジアにおける産学連携ネットワークの一貫として、台湾の大学の中でも産学連携に力を入れている国立成功大学との関係構築にかねてから取り組んできましたが、平成24年3月に初めて、具体的な研究者交流を実現しました。

台湾の超小型衛星研究の中心であり、日本人研究者も数名滞在して研究活動に従事している国立成功大学の宇宙プラズマ研究センターを訪問し、本学の宇宙環境技術ラボラトリーとの間で実施したものです。成功大のC. Z. Frank Chengセンター長と本学の趙孟佑施設長からそれぞれの研究の取組みを紹介し合うとともに、成功大の航空宇宙関連の実験施設や電機資訊学院などを訪問し研究者と意見交換を行いました。今回の交流で両大学の相互交流に強い関心が示されたため、その後、学生交流を含めた学術・学生交流を本学工学部・工学府と成功大の電機資訊学院及び理学院との間でそれぞれ締結することになりました（実際には平成24年度に完了）。

本学の超小型衛星分野では台湾の大学と機関レベルでの正式協定関係は初めてとなるため、今後は研究者交流と学生交流により、両大学の超小型衛星分野の相互発展を図りながら、将来的には本学が新設した超小型衛星研究試験センターも活用した共同・受託研究へと展開つなげていきたいと考えています。



台湾南部の中心的工学教育機関として1931年に設置され、現在では台湾およびアジアでも有数の総合大学として発展してきた国立成功大学。台湾南部の産学連携推進の中心的大学でもある。



国立成功大学宇宙プラズマ研究センターと本学宇宙環境技術ラボラトリーとの初の研究交流会。向かって前列右が本学趙孟佑教授、左が国立成功大学のC. Z. Frank Cheng教授



電機資訊学院電機工程系（電気工学・コンピュータサイエンス学部電気工学科）での研究交流

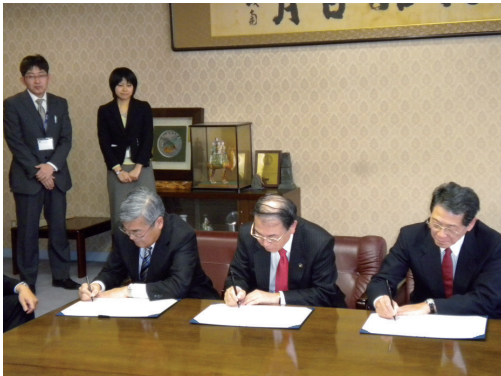


航太科技研究中心（宇宙科学技術研究センター）での施設見学

15 飯塚病院等と医工学連携の協力推進に関する協定を締結

平成23年12月、本学と飯塚病院、飯塚市は、医療分野の発展に資する医工学連携を推進することを目的として「医工学連携の協力推進に関する協定」を締結しました。

本協定により、今後、飯塚市の地域中核医療機関である飯塚病院を核とした協力推進体制を構築、研究協力、共同研究、人材の育成及び交流等について連携協力を強化することで、医療現場が抱える課題の解決と大学の技術シーズの実用化、地域中小企業の医療分野への新規参入、ひいては、新産業の創出を目指すこととしております。



協定書へ署名



(左から) 松永学長、齊藤飯塚市長、田中飯塚病院長

16 (独)産業技術総合研究所及び北九州市と連携・協力協定を締結



協定書へ署名



(左から) 松永学長、産総研 野間口理事長、北九州市 北橋市長

独立行政法人産業技術総合研究所及び北九州市と本学は、研究開発や人材育成の連携・相互協力に関する協定を平成24年2月に締結しました。独立行政法人産業技術総合研究所や北九州地域の研究機関等との共同研究や人材交流等を進めることで、北九州市の産業競争力の強化と、活力のある個性豊かな地域社会の形成・発展、地域産業の振興に寄与することを目指しています。

なお、本協定に基づいて連携する最初のテーマを「環境エレクトロニクスの研究」とし、連携・協定に関する覚書を併せて三者で締結しました。

17 山口フィナンシャルグループ3銀行と産学連携に関する協定を締結

平成24年3月、本学と山口フィナンシャルグループ、北九州銀行、山口銀行、もみじ銀行は、相互に連携・協力して地域の産学連携を推進し、地域産業の振興及び発展に寄与することを目的に、「連携協力協定書」を締結しました。

本協定により、今後、研究成果等のシーズと銀行取引先企業とのマッチング、取引先企業における技術的な課題解決のための技術相談、産学連携推進のための講演会、セミナー等の開催の相互協力等を進めることとしております。



協定書へ署名



(左から) 北九州銀行加藤頭取、本学松永学長

18 福岡工業大学と金型製造技術に関する連携協定を締結

平成24年5月、福岡工業大学（以下福工大）と相互に連携して金型製造技術の向上、高度技術者の育成及び金型産業の発展・振興に貢献することを目的として連携協定を締結しました。

アジアとの国際競争が激化する厳しい環境のなかで、金型関係センターを設置し、地域の金型産業支援に取り組んでいる全国でも数少ない大学である本学と福工大が連携することにより、金型製造技術における国内最高レベルの人材育成や研究開発のさらなる促進が期待でき、北部九州の自動車産業、さらには国内の金型製造技術の向上及び金型産業の発展・振興に大きく貢献することを目指しています。



(左から) 松永学長、小川福岡県知事、
下村福岡工業大学学長

出展、開催事業等一覧表

日時		項目
5月	25日～26日	プログラム著作権制度設計説明会を3キャンパスで実施
6月	23日～24日	西日本総合機械展に出展（5件）
7月	31日～8月2日	韓国HANBAT大学校で産学交流講演会を開催
8月	25日	飯塚病院と医工連携懇談会を開催
9月	15日	九州工業大学ビジネスプランコンテストを開催
	21日～22日	イノベーションジャパン2011に出展（展示4件、技術説明3件）
10月	12日～14日	エコテクノ2011に出展
	19日～21日	産業連携フェアに出展（5件）
	28日	出前講座キャラバンin古賀を開催
11月	9日	しんきん合同商談会に出展（1件）
	9日～11日	九州・国際テクノフェアに出展（5件）
	16日～17日	第7回環黄海産学官連携大学学長フォーラムに参加
	30日	北九州ビジネス交流会2011に出展(1件)
	30日	出前講座キャラバンin大牟田を開催
12月	16日	新技術説明会をJST ホールで実施（10件）
	19日	飯塚市、麻生病院と「医工学連携の協力推進に関する協定」を締結
1月	11日～25日	事業開発ビジネス講座を開催
	13日	知的財産セミナー「日本と米国における、学会発表と特許出願の関係における法改正について」を開催
	19日	次世代医療システム産業化フォーラム2011で研究報告
	23日	中津商工会議所九州工業大学ラボツアーを実施
2月	7日	出前講座キャラバンin下関
	9日	事業開発ビジネス講座を開催
3月	2日	台湾国立成功大学で技術紹介セミナー
	6日	事業開発ビジネス講座を開催

平成23年度 共同研究一覧 (191件)

※部局・所属:平成23年度現在 ※職名:平成24年3月31日現在

部局	所属/職	研究者名	共同研究先企業等名	研究題目
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /教授	梅景 俊彦	非公表	非公表
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /教授	梅景 俊彦	非公表	非公表
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /教授	金元 敏明	本多機工株式会社	ロトジェットポンプ(特殊ポンプ)の研究開発
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /教授	金元 敏明	非公表	非公表
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /教授	金元 敏明	非公表	非公表
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /准教授	河部 徹	非公表	非公表
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /准教授	河部 徹	株式会社 戸畑ターレット工作所	加工熱処理によるアルミニウム合金の高強度化
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /教授	金 亨燮	吉川工業株式会社	胸部診断精度向上を目指した医療用3次元読影CADシステムの開発
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /教授	金 亨燮	非公表	非公表
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /教授	金 亨燮	吉川工業株式会社 エンジニアリング・機器事業部	胸部診断精度向上を目指した医療用3次元読影CADシステムの開発
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /教授	田川 善彦	非公表	非公表
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /准教授	平木 講儒	株式会社九州テクノリサーチ	ダリウス式水車を活用した小規模潮流発電システムの実用化に向けた実証試験
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /准教授	平木 講儒	株式会社IHIエアロスペース	再突入システムの研究
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /准教授	平木 講儒	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所	火星パワードパラグライダー(PPG)機に関する研究
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /准教授	平木 講儒	独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	ラムエアパラシュート(RAP)による滑空軟着陸技術に関する研究
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /教授	松田 健次	日本鋳鍛鋼株式会社	鋼板圧延用補強ロールの転がり疲労損傷における評価技術の検討
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /教授	宮崎 康次	技術研究組合BEANS研究所	熱電半導体の高次ナノ構造形成と熱・電子物性の評価
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /教授	宮崎 康次	非公表	非公表
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /教授	米本 浩一	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所	高頻度運用炭素繊維強化プラスチック液体酸素タンクの試作研究
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /准教授	米本 浩一	非公表	非公表
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /准教授	米本 浩一	独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	小型有翼ロケット実験機による飛行環境適合型最適誘導制御システムの飛行実証実験
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /准教授	米本 浩一	非公表	大型ロケット用複合材製液体酸素タンクの試作研究
大学院工学研究院	機械知能工学研究系 /准教授	米本 浩一	非公表	LNGエンジンを搭載する準軌道型宇宙輸送システムの概念設計
大学院工学研究院	建設社会工学研究系 /准教授	穴井 謙	非公表	非公表
大学院工学研究院	建設社会工学研究系 /准教授	伊東啓太郎	北九州市役所	勝山公園大芝生広場における高木植栽について
大学院工学研究院	建設社会工学研究系 /准教授	伊東啓太郎	非公表	非公表
大学院工学研究院	建設社会工学研究系 /助教	合田 寛基	西松建設株式会社 九州支社	RDF飛灰を混和したジオポリマーに関する研究会
大学院工学研究院	建設社会工学研究系 /教授	永瀬 英生	非公表	非公表
大学院工学研究院	建設社会工学研究系 /教授	松田 一俊	非公表	非公表
大学院工学研究院	建設社会工学研究系 /教授	松田 一俊	非公表	非公表

部 局	所 属 / 職	研究者名	共同研究先企業等名	研 究 題 目
大学院工学研究院	建設社会工学研究系 /教授	山口 栄輝	山九株式会社 プラント事業部	モノレール主桁の老朽化診断技術の確立
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	和泉 亮	東洋ステンレス研磨 工業株式会社	希少金属節約を目的とした高耐熱、高耐食機能を 有する薄膜の試作開発
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	和泉 亮	非公表	非公表
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	和泉 亮	非公表	非公表
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	大村 一郎	財団法人国際東アジア 研究センター	パワーエレクトロニクス機器の高パワー密度化に関する研究
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	大村 一郎	非公表	非公表
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	大村 一郎	非公表	非公表
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /准教授	大塚 信也	E&C エンジニアリング株式会社	放電起因電磁波の伝搬特性及びその評価
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /准教授	大塚 信也	非公表	非公表
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /准教授	大塚 信也	富士化学株式会社	非公表
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /准教授	大塚 信也	非公表	非公表
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /准教授	大塚 信也	富士通テン株式会社	ESD 対策技術の販用化開発
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /准教授	大塚 信也	株式会社ロジカルプロダクト	電磁波可視化装置の主要素部品とESD対策技術の 販用化開発
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	桑原 伸夫	非公表	非公表
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /助教	小迫 雅裕	サトーリサーチ株式会社	ナノアルミナ絶縁コート技術に関する基礎研究
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /助教	小迫 雅裕	RIMTEC 株式会社	ポリジシクロペンタジエンの各種電気特性の把握
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	白土 竜一	非公表	非公表
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /准教授	豊田 和弘	独立行政法人宇宙航空 研究開発機構	軌道上放電観測実験の検証 (平成23年度)
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /准教授	中司 賢一	非公表	非公表
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /准教授	中司 賢一	非公表	非公表
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	匹田 政幸	イオンデライト株式会社	電力設備 部分放電モニタシステム構築
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	匹田 政幸	株式会社 東芝 浜川崎工場	電力系統における特殊遮断責務に関する研究
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	匹田 政幸	株式会社 東芝 浜川崎工場	GIS における部分放電パルス伝搬/漏洩現象の調査・ 解析に関する研究
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	匹田 政幸	日本ガイシ株式会社 電力技術研究所	ポリマーがいし用ナノコンポジット材料の研究及び評価
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	匹田 政幸	非公表	非公表
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	匹田 政幸	非公表	非公表
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	匹田 政幸	株式会社日本 AE パワーシステムズ	予防保全技術『油中部分放電検出に関する研究』
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	匹田 政幸	東芝三菱電機産業 システム株式会社	インバータ駆動電動機絶縁に関する研究
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	匹田 政幸	株式会社 東芝 社会インフラシステム社 浜川崎工場	ナノコーティングによる絶縁物のDC特性改善に関する研究
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	匹田 政幸	非公表	非公表
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	匹田 政幸	株式会社 東芝 社会インフラシステム社 浜川崎工場	ガス中金属蒸気の拡散の測定に関する研究
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	匹田 政幸	愛知電機株式会社	絶縁油の部分放電現象に及ぼすBTAの影響調査研究
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	匹田 政幸	株式会社 東芝 浜川崎工場	UHF 法による油入変圧器の部分放電検出技術の高度 化に関する研究

部 局	所 属 / 職	研究者名	共同研究先企業等名	研 究 題 目
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	三谷 康範	非公表	非公表
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	三谷 康範	株式会社黒木	遮熱保温塗料塗布による既築建物の省エネルギー効果定量(省エネ率)評価方法及び省エネルギー計算の算出
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /教授	松本 聡	スマートソーラーインター ナショナル株式会社	グリッドパリティ実現への都市向低集光型太陽光発電システム用DC-DCコンバータの開発
大学院工学研究院	電気電子工学研究系 /准教授	渡邊 政幸	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /教授	恵良 秀則	株式会社 戸畑ターレット工作所	温間加工したアルミニウム合金の機械的性質と組織
大学院工学研究院	物質工学研究系 /教授	横野 照尚	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /教授	大谷 博司	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /教授	大谷 博司	財団法人 くまもとテクノ産業財団	合金組成開発－LPSO相生成メカニズム解明－ (熊本県地域結集型研究開発プログラム 次世代耐熱マグネシウム合金の基盤技術開発)
大学院工学研究院	物質工学研究系 /教授	大谷 博司	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /教授	大谷 博司	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /教授	大谷 博司	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /教授	大谷 博司	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /教授	鹿毛 浩之	有限会社イタケン	マイクロバブルオゾン水利用による従来設備に比較した省エネルギー率50%達成のための共同研究
大学院工学研究院	物質工学研究系 /教授	鹿毛 浩之	丸福水産株式会社	塗料等コーティング剤の微粒子化の特性に関する研究
大学院工学研究院	物質工学研究系 /教授	清水 陽一	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /教授	清水 陽一	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /教授	清水 陽一	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /准教授	高須登実男	三井金属鉱業株式会社	亜鉛電解における液流動と電解挙動の解析
大学院工学研究院	物質工学研究系 /准教授	高須登実男	株式会社 アステック入江	電気炉系製鋼スラグの粉塵化防止メカニズムの解明
大学院工学研究院	物質工学研究系 /准教授	高須登実男	財団法人 くまもとテクノ産業財団	溶解・鋳造技術開発－溶解技術開発－ (熊本県地域結集型研究開発プログラム 次世代耐熱マグネシウム合金の基盤技術開発)
大学院工学研究院	物質工学研究系 /助教	高瀬 聡子	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /教授	柘植 顕彦	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /教授	柘植 顕彦	シャボン玉石けん株式会社	天然石けんの酸化特性の解明
大学院工学研究院	物質工学研究系 /准教授	坪田 敏樹	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /特任教授	長谷部光弘	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /特任教授	長谷部光弘	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /准教授	廣田 健治	森鉄工株式会社	数値解析を用いた多軸プレスによる連続絞り鍛造工程設計技術の開発
大学院工学研究院	物質工学研究系 /教授	松本 要	財団法人国際超電導産業 技術研究センター	1) 超電導機器対応線材技術開発(高温超電導線材のピン止めメカニズムの研究) 2) 超電導電力機器の適用技術標準化
大学院工学研究院	物質工学研究系 /助教	馬渡 佳秀	コスモ石油 ルブリカンツ株式会社	バイオマスの熱分解生成物利用技術に関する研究
大学院工学研究院	物質工学研究系 /助教	森口 哲次	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /助教	森口 哲次	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /助教	森口 哲次	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /助教	森口 哲次	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /助教	森口 哲次	非公表	非公表

部 局	所 属 / 職	研究者名	共同研究先企業等名	研 究 題 目
大学院工学研究院	物質工学研究系 /助教	森口 哲次	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /准教授	山口 富子	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /准教授	山村 方人	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /准教授	山村 方人	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /准教授	山村 方人	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /准教授	山村 方人	非公表	非公表
大学院工学研究院	物質工学研究系 /准教授	山村 方人	非公表	非公表
大学院工学研究院	基礎科学研究系 /准教授	井上 創造	非公表	非公表
大学院工学研究院	基礎科学研究系 /教授	中尾 基	非公表	非公表
大学院工学研究院	基礎科学研究系 /教授	中尾 基	株式会社九酸	電気特性評価装置(ホール効果装置)の研究開発
大学院工学研究院	基礎科学研究系 /教授	中尾 基	非公表	非公表
大学院工学研究院	先端機能システム工学研究系 /准教授	竹澤 昌晃	非公表	非公表
大学院工学研究院	先端機能システム工学研究系 /教授	趙 孟佑	国立大学法人東京大学	日本発の「ほどよし信頼性工学」を導入した超小型衛星による新しい宇宙開発・利用パラダイムの構築
大学院工学研究院	先端機能システム工学研究系 /教授	趙 孟佑	トレック・ジャパン株式会社	極限環境に対応した超小型表面電位計の開発
大学院工学研究院	先端機能システム工学研究系 /准教授	脇迫 仁	株式会社プラテックノマテリアル	ペットボトルキャップリサイクル研究会
大学院工学研究院	先端機能システム工学研究系 /准教授	脇迫 仁	株式会社プラテックノマテリアル	「ペットボトルキャップリサイクルの事業化」共同研究プロジェクト
大学院情報工学研究院	知能情報工学研究系 /教授	江島 俊朗	非公表	非公表
大学院情報工学研究院	知能情報工学研究系 /准教授	榎田 修一	非公表	非公表
大学院情報工学研究院	知能情報工学研究系 /教授	瀬部 昇	非公表	非公表
大学院情報工学研究院	電子情報工学研究系 /教授	尾家 祐二	非公表	非公表
大学院情報工学研究院	電子情報工学研究系 /教授	小田部 荘司	九州電力株式会社	超電導巻線通電損失における線材Icの負荷率依存に関する研究
大学院情報工学研究院	電子情報工学研究系 /教授	小田部 荘司	財団法人国際超電導産業 技術研究センター	1) 超電導機器対応線材技術開発(高温超電導線材のピン止めメカニズムの研究) 2) 超電導電力機器の適用技術標準化
大学院情報工学研究院	電子情報工学研究系 /助教	塚本 和也	非公表	非公表
大学院情報工学研究院	電子情報工学研究系 /助教	宮瀬 紘平	株式会社半導体 理工学研究センター	非公表
大学院情報工学研究院	電子情報工学研究系 /教授	梶原 誠司	株式会社日立製作所 日立研究所	高信頼を目指すLSIにおけるフィールド高信頼化技術の有効性を評価・検証する研究
大学院情報工学研究院	電子情報工学研究系 /助教	黒崎 正行	株式会社安川電機	電力重畳型デジタル変復調通信技術の研究
大学院情報工学研究院	電子情報工学研究系 /助教	黒崎 正行	株式会社安川電機	電力重畳型デジタル変復調通信技術の研究
大学院情報工学研究院	システム創成情報工学研究系 /教授	岡本 卓	非公表	非公表
大学院情報工学研究院	システム創成情報工学研究系 /准教授	齊藤 剛史	株式会社東郷電機製作所	画像処理に基づく割り箸原形の外観検査システムの開発
大学院情報工学研究院	機械情報工学研究系 /教授	伊藤 高廣	三島光産株式会社	MEMS技術活用 微細金型及び製品の開発
大学院情報工学研究院	機械情報工学研究系 /教授	木村 景一	非公表	非公表
大学院情報工学研究院	機械情報工学研究系 /教授	木村 景一	非公表	非公表
大学院情報工学研究院	機械情報工学研究系 /教授	木村 景一	株式会社荏原製作所	パッド表面性状の制御方法の開発

部 局	所 属 / 職	研究者名	共同研究先企業等名	研 究 題 目
大学院情報工学研究院	機械情報工学研究系 /教授	木村 景一	株式会社荏原製作所	スラリー流れ観察・シミュレーション技術の開発
大学院情報工学研究院	機械情報工学研究系 /助教	清水 文雄	非公表	非公表
大学院情報工学研究院	機械情報工学研究系 /准教授	鈴木 恵友	ニッタ・ハース株式会社	ポリシングパッドin-situ表面解析法の開発
大学院情報工学研究院	機械情報工学研究系 /准教授	田中 和明	クロスメディアネット ワークス株式会社	デジタルサイネージ装置の省電力化と遠隔監視に 関する研究開発
大学院情報工学研究院	機械情報工学研究系 /教授	田中 和博	非公表	非公表
大学院情報工学研究院	機械情報工学研究系 /准教授	永山 勝也	非公表	非公表
大学院情報工学研究院	機械情報工学研究系 /准教授	永山 勝也	非公表	非公表
大学院情報工学研究院	機械情報工学研究系 /准教授	永山 勝也	非公表	非公表
大学院情報工学研究院	機械情報工学研究系 /准教授	淵脇 正樹	住友金属鉱山株式会社	非ニュートン流体の流体解析ソフトCFXを用いた計算 技術の構築
大学院情報工学研究院	機械情報工学研究系 /准教授	淵脇 正樹	非公表	非公表
大学院情報工学研究院	機械情報工学研究系 /教授	堀江 知義	トヨタ自動車九州株式会社	3枚重ね抵抗スポット溶接の弾塑性接触・電流・熱伝導 3連成効果の検討および溶接条件決定への応用
大学院情報工学研究院	機械情報工学研究系 /特任教授	徳田 君代	非公表	非公表
大学院情報工学研究院	生命情報工学研究系 /准教授	大内 将吉	ベセル株式会社	細胞培養におけるプロテオミクスの応用
大学院情報工学研究院	生命情報工学研究系 /教授	坂本 順司	株式会社 アール	環境浄化に関する微生物叢解析
大学院情報工学研究院	生命情報工学研究系 /教授	坂本 順司	株式会社 アール	バイオレメディエーション技術による環境浄化の多様化 技術開発とそれに関する微生物叢解析
大学院情報工学研究院	生命情報工学研究系 /准教授	坂本 寛	旭化成ファーマ株式会社 診断薬製品部	便潜血の新しい検査方法の開発
大学院情報工学研究院	生命情報工学研究系 /助教	引間 知広	ニチバン株式会社	微細針を用いた経皮吸収型製剤の研究
大学院情報工学研究院	情報創成工学研究系 /准教授	梅田 政信	株式会社なうデータ研究所	非決定性関数型言語の言語処理系とその応用に関する研究
大学院情報工学研究院	情報創成工学研究系 /教授	延山 英沢	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	尾川 博昭	ダイヤモンド エンジニアリング株式会社	余剰汚泥減容資材の微生物群の解析及び有用菌の同定
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /准教授	加藤 珠樹	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /准教授	加藤 珠樹	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	金藤 敬一	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	金藤 敬一	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	白井 義人	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	白井 義人	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	白井 義人	財団法人新エネルギー財団	バイオ燃料等の付加価値を有する木質バイオマス由来 バイオ炭生産に関する研究
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	白井 義人	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	白井 義人	株式会社エコウッド	気相重合により高度な耐候性が付与された木材・プラス チック再生複合材の研究
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	西尾 一政	古河スカイ株式会社	アルミニウム合金のクラッド圧延の研究
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	西尾 一政	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	西尾 一政	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	早瀬 修二	非公表	非公表

部 局	所 属 / 職	研究者名	共同研究先企業等名	研 究 題 目
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	早瀬 修二	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	早瀬 修二	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	早瀬 修二	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	早瀬 修二	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	早瀬 修二	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	早瀬 修二	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	早瀬 修二	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	春山 哲也	荏原実業株式会社	オゾン処理プロセスによる細胞接着・非接着パターン化基板の製作
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /助教	山田 洋明	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	横井 博一	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	脳情報専攻 /准教授	我妻 広明	独立行政法人理化学研究所	ダイナミックブレインプラットフォーム (PF) の構築
大学院生命体工学研究科	脳情報専攻 /教授	石井 和男	大分キヤノン株式会社	微小部品の整列を可能とする部品供給装置の開発
大学院生命体工学研究科	脳情報専攻 /准教授	宮本 弘之	非公表	非公表
大学院生命体工学研究科	脳情報専攻 /教授	森江 隆	株式会社半導体 理工学研究センター	スパイク結合方式脳型視覚処理LSIの研究
大学院生命体工学研究科	脳情報専攻 /教授	森江 隆	非公表	非公表
産学連携推進センター	若松分室 /教授	佐藤 寧	非公表	非公表
産学連携推進センター	若松分室 /教授	佐藤 寧	非公表	非公表
産学連携推進センター	若松分室 /教授	佐藤 寧	非公表	非公表
産学連携推進センター	若松分室 /教授	佐藤 寧	ローム株式会社	アクティブノイズキャンセル技術に関する研究開発
産学連携推進センター	若松分室 /教授	佐藤 寧	非公表	非公表
産学連携推進センター	若松分室 /教授	佐藤 寧	株式会社キットヒット	リアルタイム血圧計測可能な小型モバイル健康管理機器の開発
産学連携推進センター	若松分室 /教授	佐藤 寧	非公表	非公表
産学連携推進センター	若松分室 /教授	佐藤 寧	ラピスセミコンダクタ株式会社	音響に関する研究
ネットワークデザイン 研究センター	/教授	阿留多伎明良	非公表	非公表
先端金型センター	/助教	カチョーンル アンバート	九州住電精密株式会社	マイクロ工具の工具径並びに回転振れ測定機開発
エコタウン実証研究 センター	/教授	西田 治男	非公表	非公表
エコタウン実証研究 センター	/教授	西田 治男	非公表	非公表
エコタウン実証研究 センター	/教授	西田 治男	岐阜プラスチック工業株式会社	コンテナやパレットに活用可能な、バイオマスファイバー添加プラスチックの物性向上に関する研究
先端エコフイティング 技術研究開発センター	/准教授	高嶋 授	非公表	非公表

産学官をつなぐ強い味方 —— コーディネータ & 職員紹介

●コーディネータ



○氏名

田中 洋征 (たなか ひろゆき) (客員教授) 事業化プロデューサー

○専門分野

機械工学 (材料強度、疲労、溶接強度)、研究開発マネジメント

○自己PR

これまで、大学・官庁・国公立研究機関及び産業界とのネットワークを活かして150件以上の共同・受託研究をコーディネートし、事業化の成功事例も経験してきたことから、共同研究等のノウハウ等に精通しています。事業化を前提にした産学官共同研究を希望される方は気軽に声をかけてください。



○氏名

小川 勝 (おがわ まさる) (客員教授) 事業化プロデューサー

○専門分野

化学 (化学一般、ゴム・プラスチック、FRP、セラミック)、研究開発マネジメント、特許管理、その他IT関係を除くバイオ、環境技術を含む広域分野

○自己PR

東陶機器(株)研究所長、技術開発部長、特許管理部長、環境管理部長を歴任する中で全国レベルでの多くの人脈を得ています。また、福岡県産業・科学振興財団カタライザー及びマッチングコーディネータ等を務め九州地区の大学、公設研、および企業等に人脈を有しています。また、コーディネート実績、事業化実績等豊富です。

これまでに、産学 (官) 共同研究をコーディネートした結果、成功した助成金・補助金等の金額の累計は、11年間で37億円に達します。広い分野において研究開発企画、共同研究における産学のまとめ方、事業として成功するノウハウおよび申請のポイント等に精通しています。

○連絡先

自宅 電話/FAX 093-522-5065 携帯 090-5087-7194

E-mail ogawa-ma@estate.ocn.ne.jp



○氏名

波多江 俊一 (はたえ しゅんいち)

○専門分野

パイプライン建設、建材の開発&設計および販売

○自己PR

鉄鋼メーカーにてガス、水道および石油等のパイプライン建設に約10年間携わり、その後、鉄鋼2次製品を使用した建材の開発、設計および販売の業務に約24年間従事しました。

また、これらの業務と併行して建材の官民共同研究、産学共同研究に取り組みました。今までの物づくり、物売りのノウハウが社会へ貢献できる企業、大学および地域を構築する一助になれば幸いに存じます。地域社会ひいては世界の発展と幸福に貢献できる技術情報は喜んでお受けしますのでよろしくお願ひ致します。企業と大学の相互通行を案内します。



○氏名

山崎 博範 (やまさき ひろのり)

○専門分野

機械工学 (製品開発、生産設備設計、プレス金型)

○自己PR

家電製品開発設計、半導体用ロボットや自動機、生産設備の開発設計、プレス金型設計等、幅広い分野の機械の開発設計に長年携わってまいりました。これらの経験を活かし、産のニーズと学のシーズのマッチング、産学官連携に少しでもお役にたてればと思っています。お気軽に声をかけてください。

○連絡先

E-mail hi-yamasaki@jcom.home.ne.jp



○氏名

石井 宏一 (いしい こういち)

○専門分野

研究開発PR バイオテクノロジー 材料加工 電子デバイス

○自己PR

その昔、メカトロニクスのエンジニアとして社会への第一歩を踏みだしましたが、長年にわたって、研究開発分野を中心にした企業の広報活動、新卒採用PRを手がけ、自身の取材によって執筆活動も行ってきました。

「工学」の専門家ではありませんが、いかにシーズを魅力的なものとして表現していくかについては、多くの企業・団体の印刷物やWebサイトの制作を通じて様々な経験を積んで参りました。企業と研究を媒介する、と一言で申ししても、このふたつの分野には互いにコミュニケーションできる環境がまだ十分には育っていないのではないかと考えています。専門化と細分化が進む現在のエンジニアリングの中で、いかに市場に向かって新しい価値を生み出していくか、それは、印刷物やWebコンテンツと同様に、技術を「編集」して、情報を発信する側と受け取る側にコミュニケーションを構築していく作業だと考えています。



○氏名

荻原 康幸 (おぎはら やすゆき)

○専門分野

ソフトウェア・プログラム

○自己PR

学部、大学院と九州工業大学にお世話になってまいりました。学生時代はeラーニングの研究を、研究以外ではRoboCupに参加し、ロボットのソフトウェア開発を行いました。

また別の大学では研究員を経験し、eラーニングの開発・運用に携わり、学生時代から現在まで、公私ともにソフトウェアの開発を行ってきました。

産学官連携の仕事は初めてですが、九州工業大学および産業の発展のために少しでもお役に立てるように努力していきたいと思っております。どうぞお気軽にお声をおかけください。

ちなみに最近の趣味は山登りと写真です。

●職員

○センター長（教授）／ベンチャー支援部門長

お	た	べ	そ	じ
小	田	部	う	司
あ	ほ	や	ひ	ひろ
か	し	す	ろ	浩
な	む	く	ひ	ひこ
か	ら	に	こ	彦
中	村	邦	た	か
さ	え	む	か	高
佐	き	ね	き	樹
こ	小	心	な	お
き	西	直	お	き
く	ち	し	な	樹
菊	地	ん	お	い
		晋	一	一

○副センター長（教授）

○知的財産部門長（教授）

○リエゾン部門長（教授）

○教育支援部門長（准教授）

○国際部門長（教授）

○戸畑本部

- ・准教授／地域連携マネージャー
- ・地域連携マネージャー（客員准教授）
- ・知的財産マネージャー（客員教授）
- ・知的財産DNAマネージャー（客員教授）
- ・知的財産マネージャー
- ・国際渉外・法務担当
- ・技術交流会担当
- ・事務
- ・事務
- ・事務

す	い	な	あ
砂	り	成	き
じん	の	み	ふ
神	野	ぎ	み
あ	ど	右	文
ん	う		静
安	東		し
お	な	た	ず
尾	か	け	か
い	仲	武	も
し	だ		と
石	田		基
しま	だ		せい
島	田	ち	精
お	に	知	か
お	し	ま	佳
大	西	ま	な
の	より	真	み
野	依	奈	美
く	ね	さ	こ
す	根	ち	子
楠	か	祥	よ
うち	香	な	代
内	だ	お	こ
	田	菜	子
		保	

○飯塚分室

- ・飯塚分室長（准教授）
- ・事務

こ	に	な	き
小	し	お	樹
し	西	直	き
お	た	み	ゆ
塩	田	美	紀

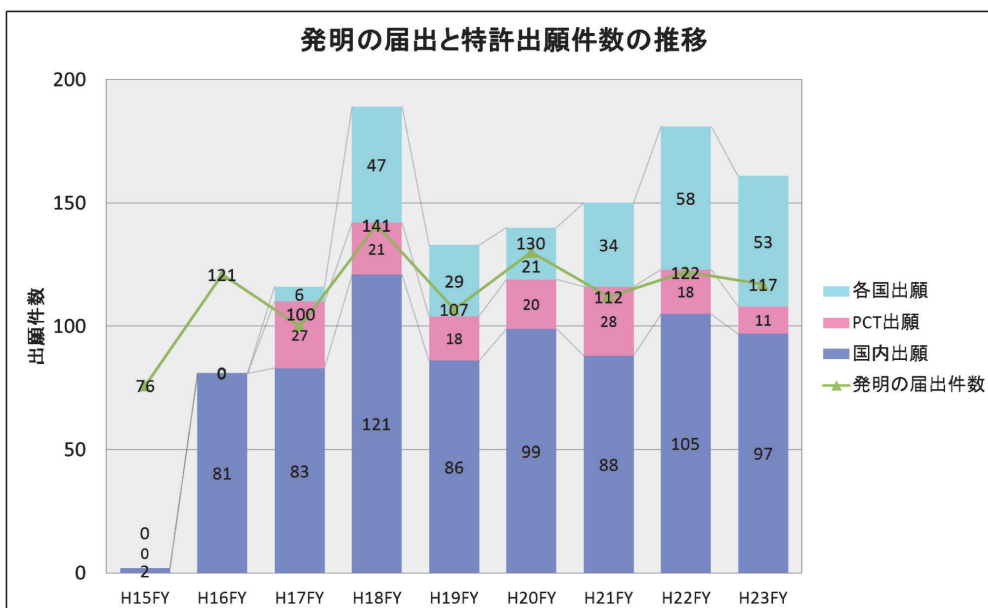
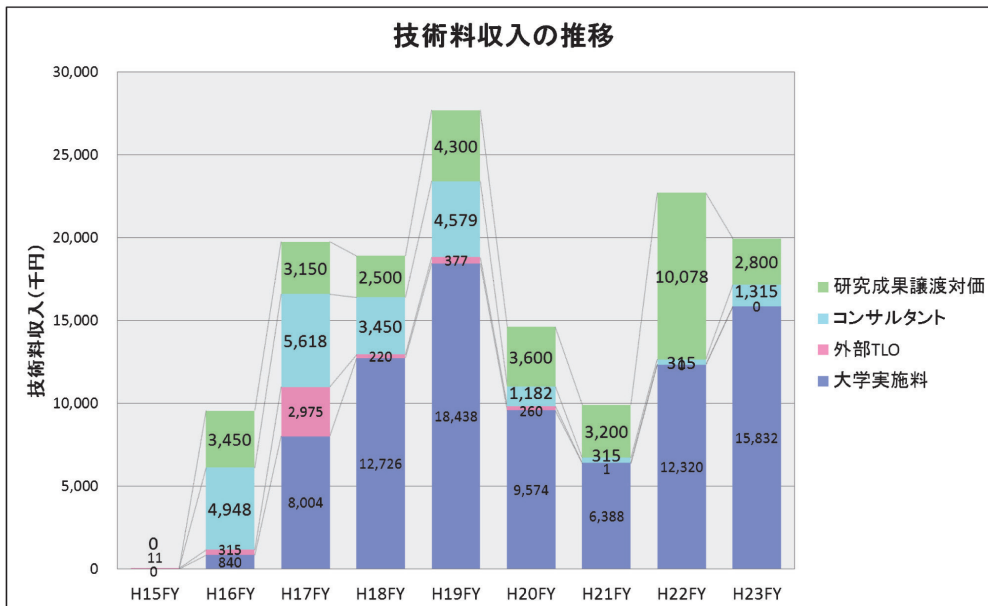
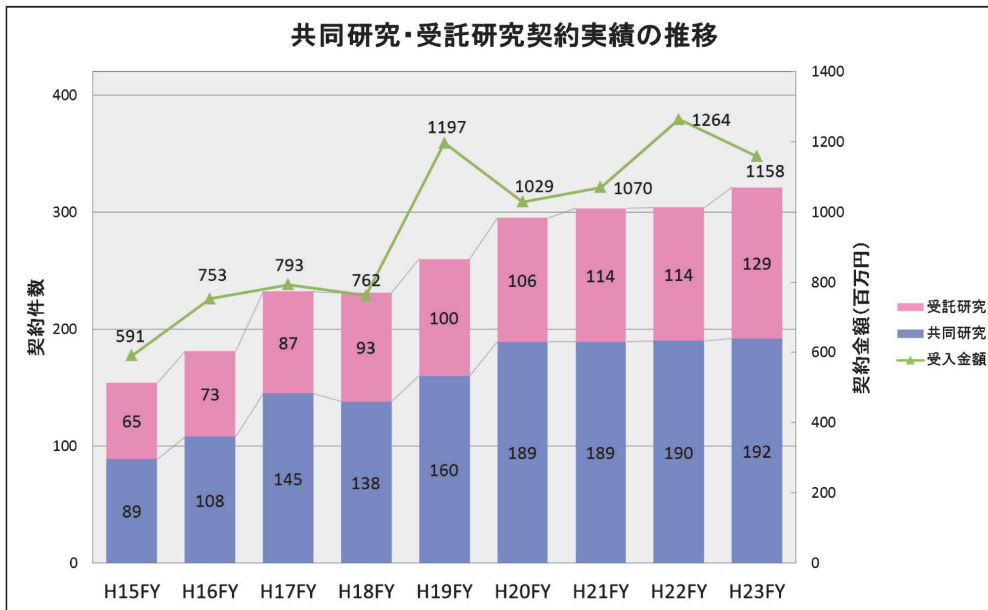
○若松分室

- ・若松分室長（教授）
- ・教授
- ・研究員
- ・事務

い	い	か	お
石	井	和	男
さ	と		やす
佐	う		し
り	藤	あ	寧
ゅう		つ	こ
龍		敦	子
み	は	け	こ
宮	原	い	子
		敬	

※平成24年9月1日のリサーチ・アドミニストレーション・センター（略称：URAセンター）の設立に伴い、産学連携推進センターと共にイノベーション推進機構（機構長：鹿毛浩之教授）の下に設置されることになりました。

数字でみる九工大の産学連携



九州工業大学産学連携推進センター

〒804-8550北九州市戸畑区仙水町1-1
TEL (093) 884-3485 FAX (093) 881-6207
e-mail:office@ccr.kyutech.ac.jp
<http://www.ccr.kyutech.ac.jp/>

九州工業大学産学連携推進センター飯塚分室

〒820-8502飯塚市川津680-4
TEL (0948) 29-7895 FAX (0948) 29-7899
e-mail:iizuka@ccr.kyutech.ac.jp

九州工業大学産学連携推進センター若松分室

〒808-0196北九州市若松区ひびきの2番4号
TEL (093) 695-6150 FAX (093) 695-6148
e-mail:hit-ml@lsse.kyutech.ac.jp

九州工業大学東京サテライトオフィス

〒100-0011東京都千代田区内幸町2-2-3日比谷国際ビル1F
TEL (080) 3186-2042